

ティーチング・ステートメント

所属 観光マネジメント学科

名前 平井友行

作成日 2025年4月

【責任】

観光マネジメント学科に所属し、経営学、統計解析等に関する教育と研究活動を行っている。主たる教育活動は、「経営とデータサイエンス」、「統計学」などの講義科目の担当、ゼミナールにおける学生の研究支援である。

【理念】

学生には「自ら課題を発見し、その解決手法を見出し、具体的に動いていく」という「循環」を身に付けて欲しい。社会的課題であっても、企業の中に見出す課題であっても、どんなものでも構わない。自らそれらの課題を捉え、解決手法を見出すという「訓練」を学生時代に繰り返し、成長機会として欲しい。

【方針・方法】

方針・手法としては、現実的に或いは実務的に生じている事例研究をふんだんに取り込んだ講義ゼミを行う。学生の興味関心によっては一つの新聞記事であっても十分に有用な教材となる。学生が身近に起きている出来事について常に関心をもてるような工夫をしたい。特に、実務家である教員として、変化の激しい現実的な経済状況については、日々の講義ゼミのなかで、常に伝え、学生が問題意識を高められるようにする。

骨太な解決手法を見出す為には、当然に諸学問の持つ基礎的理論を思考の軸とする必要がある。また、統計解析についても解決手法等を確定する上ではきわめて重要であり、そういう意味では、講義ゼミは、理論を応用し、統計を活用する貴重な場となる。

解決手法を見出したとしてもそれを表現し相手に伝えていくことが、学生には求められる。自身が見出した課題に対し、新たなソリューションを導きだしたとしても、自身の属する組織に理解してもらわなければ、社会においては、その実現は覚束ない。

講義ゼミでは、自由な雰囲気での発言し、教員、他の学生とのディスカッションを通じ、多くの壁打ちを繰り返す。プレゼンを通じ、周囲を説得することで、具体的な解決手法の妥当性について確信を持つ。学生がその一連の流れを実感できる工夫をしたい。

【評価・成果】

授業アンケートの評価を通じて成果、改善点を確認する。

【目標】

周囲を取り巻く環境に常に興味関心を頂き、その中から課題を発見し、自分自身が絡みながら問題解決を図っていくという、社会に出た直後からも十分に活かせる行動パターンを身に付けていってもらうことを目標とする。

以上